

里山は、人間と自然の長い歴史の中で作り上げられた環境です。森だけでなく、水辺や田畑があり、生活のための整備がされています。そこにさまざまな生き物が適応した結果、今の里山の生態系が出来上がっています。それは、まさしく農村文化そのものです。

ただ、当地域と他地域の里山の決定的な違いは、「日本有数の豪雪地帯」といわれるほど、多量の雪と向き合いながら暮らしている



「森の学校」キョロコ  
案内人（館長）  
村山 暁さん

キョロコは、参加体験型の里山科学館です。人は、体験をすることで思い出や愛着が生まれ、地域に対する価値を育むことができます。知識は、時間が経てば失ってしまうかもしれませんが、体験を通じて得たものは忘れにくく、生涯、その人の財産になります。キョロコは、「体験」を通して雪里の価値を創造し、地域づくりにつなげていきます。

「森の学校」キョロコ  
よろずや（管理人）  
佐藤 一善さん



### キョロコは学びを共有する場

キョロコは、子どもから大人まで学べる場。体験中の何気ない会話から方言を知ることや学び、自分の地域との違いに気づくのも学びです。生活の中でも同じことが言えます。

私たちも、参加者から学ぶことも多くあります。人は、一人ひとりがアイデアや知恵を持っています。それを分かち合い、共有する場がキョロコなのです。



地域づくりは、地域を知る（学ぶ）ことから  
体験を通して価値を創造する。それがキョロコの役割。

ということですが、雪に埋もれる自然の中で育まれた、この地域ならではの文化があります。キョロコでは、雪のある里山を「雪里」と呼んでいます。

雪は、生活に多くの苦勞を負荷しますが、同時に多くの恵みをもたらしてくれます。雪の中の語らひは絆を深め、雪があるからこそそれを克服して、さらに楽しむうとする知恵や気質が生まれます。また、雪がたくさん降るからこそ、このような低標高にブナ林があります。そんな「雪里」をキョロコから世界へ発信したいと考えています。

松之山地域 特集

## 「森の学校」キョロコ。

# 雪ふる里山の魅力みつけた

体験で育む。地域づくりのための価値の創造



季節によってさまざまなプログラムを提供。豪雪体験（写真左上）、農業体験（写真右上）、自然観察（写真右下）のほか、森を育む活動（写真左下）も行っています。写真下中央は施設名の由来ともなった「キョロコロロ」と鳴くアカショウビン

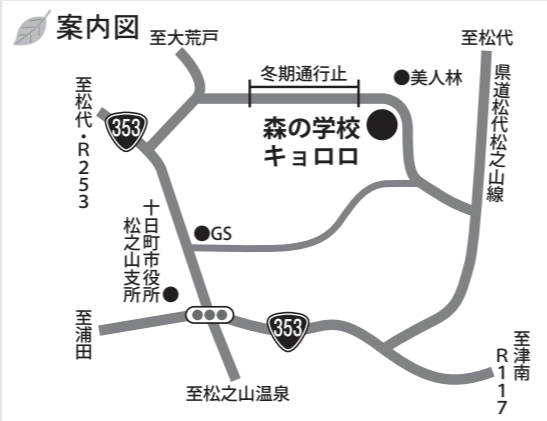
人と自然が、互いに恩恵を受けながら共存している「里山」。十日町市は、日本の原風景とも言われている里山が、今も色濃く残っています。この里山での、太古の昔から受け継がれてきた自然や農業、そして生活の中での知恵や文化は、そこにある資源を活用したなりわいであることから、これからの持続可能な社会のモデルになると言われています。

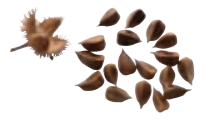
「森の学校」キョロコは、市内でも多くの里山が残る松之山にあります。ここでは、体験を通して里山と向きあい、価値の創造につながる学び・気づきを提供しています。そして、学びから実践へ、さらに産業創出・活性化へつなげる「地域づくり」を目指しています。

「里山」の価値を振り返り、キョロコを通じた地域づくりの可能性を探ります。

## キョロコに行こう！ キョロコで体験しよう！

- 開館情報：午前9時～午後5時※入館は4時30分まで  
火曜日休館（火曜日が祝日の場合は翌日休館）。  
年末年始は12月25日（火）～31日（月）休館（1月1日（元旦）・2日（水）は開館）
- 入場料：大人500円、小・中・高生300円  
※幼児・市内の小・中学生は無料
- 問合せ：☎595-8311





# 今こそ大切にしたい 雪 森 農 里

— キョロ口が発信する。雪里の持続可能な循環型社会 —

雪里は、さまざまな要素がつながり、めぐりながら成り立っています。そこで「雪」・「森」・「農」・「里」の4つの要素から、相互のつながりや私たちの生活との関係を考えてみます。



## 雪

私たちの生活と切り離すことができない雪。雪はこの地域ならではの自然と文化を生み出してきました。昔は冬に山からまきなどをソリで運び出したり、雪を天然の冷蔵庫にしたりしました。時代が変わり、今は、雪下にんじんの栽培など産業にも活用されています。豊富な雪解け水は、森を通り、田畑や生活水に利用されるなど、私たちの生活に今でも欠かせません。

冬の美人林でスノーシュー体験の案内をしたら、やぶごさきしたり雪ん中で寝っ転がったりと、すっごい喜んでくれたっけ。難儀な雪降ろしだって、雪国体験で募集すりゃ、喜んで来てくれら〜ねるか。雪里の恵みを生かしてお客さんに来てもらうがを、キョロ口といっしょに考えよての！

相澤 亨さん（小谷・73歳）

雪里のくらしや知恵を知りつくれた達人



## 森

森は、雪解け水や雨を受け止め、時間をかけて河川へ流してくれます。流量を安定させ、洪水を防ぐ役目も担っています。棚田など十分な流量の川が近くにない土地での田畑では、ミネラルを多く含んだ水を安定して供給してくれる森の存在はとても重要です。また、豊かな土壌をつくり、多様な生き物が共存することで、きのこなどの副産物も生みだしてくれます。

キョロ口の森と美人林ってのは、緑の生産（木）・消費（虫）・分解（菌類）の3者が循環し、土がフカフカで実にはいい森だんがのお。本物の自然だすけ、一番の財産だこっつお。キョロ口に来りゃ、森の良さや不思議さがよく分かるすけ、なじよも来てもらって、森の良さを体感してくんねかい。

小口成一さん（松之山・71歳）

自然や植物を愛する自然観察の達人



## 農

雪や森の自然の恩恵を受けながら長い歴史とともに培われた農業。中山間地では、今も、地形に沿った田んぼや棚田が残っていますが、田んぼもまた豊かな自然環境を作るためには必要不可欠です。森とともに水を貯蓄・浄化し、地滑りを防ぎ、森にすむ生き物のえさ場となっています。また、農業は、体験を通じた学習の場としても優れています。

キョロ口の田んぼは、無農薬でブナ林の清水で育ててるんだんが、安全なお米だぜ。おまけに田んぼの中や周りには生き物がいっぱい、子どもも楽しめるぜ。採れたお米はキョロ口の食堂で使ってるっせ食べに来ての。自然栽培は容易じゃねでも、元気なうちはがんばるすけ！

保坂廣一さん（下川手・76歳）

「キョロ口の田んぼ」を管理する達人



## 里

このように、雪の恵み、森の恵みによって私たちが住む地域、農ある里山の暮らしが成り立っています。それは、自然の流れに委ねるのではなく、積極的に手を加えながら、作り上げてきた環境です。いわば、積み重ねた知恵をもって、地域にある資源を有効に活用する持続可能な循環型の社会を築き上げてきたということです。

しかしながら、現在では、雪は変わらずに降るものの、森の利用がされなくなり、田んぼの耕作面積は年々減り続けています。互いの関係を保ちながら成り立っていたものが、一つでも失われてしまったら、雪里は大きく変化してしまうかもしれません。

里山は楽しいことがいっぱいあるんだんが、ぜひ遊びに来てくんねかい。自然の恵みを享受する楽しさを、とことん紹介するっせの。ご希望とあらば、静かな美人林の中でオカリナの演奏もプレゼントするんだんが。とにかく「里山は、何より楽しい遊びの広場」だんがのお！

保坂 清さん（下川手・66歳）

里山を遊びの広場に変えてしまおう達人



キョロ口は、研究を行いながら、雪里の価値を創造してもらう体験を提供しています。そして体験を通じた学びや気づきから、地域活性化・産業振興につながるための活動を続けています。

# キヨロロは雪里での地域づくりに取り組んでいます

—キヨロロ専属4人の博士に聞く。キヨロロを通じた学びと雪里への思い—

キヨロロには博士号を持ち、市外から来た4人の研究員が在籍しています。それぞれが昆虫や植物などのエキスパート。そんな4人が松之山の雪里の魅力について語ります。

## 雪里から学ぶ 人と自然との関係

アリ類の生態を中心に研究しています。アリは環境への適応力が高く、意外に種類が多い昆虫で、松之山には希少な種も確認されています。また、私のもう一つの研究に環境教育があります。この地域の人々は多様な雪里の自然をうまく利用して生活してきたことが印象的です。その生活を体験してもらうことで、これから自然とうまく向き合っていくかについてさまざまなヒントを得ることができそうです。今後は自然や文化を活用したプログラムのほか、それらプログラムの教育的効果を研究していきたいと思っています。



理学博士  
岩西 哲 (36歳)

## ブナを通じて 雪里の恵みを実感

雪里をブナの生態からの側面で研究しています。例えば、熊の出没とブナの開花に相関関係があることが調査で分かり、早期の熊注意報を発信しました。また、ブナは5〜7年周期で実の付け方を変えます。昨年は大豊作で、クロステンに協力しブナの実のスイーツを試作しました。キヨロロ研究者は、地域活性化の要と言われる「よそ者」「若者」「ばか者(専門)」がそろっています。既存の考えにとらわれずに新しい見方を発見するために皆さんと共に活動し、発信していきたいと思っています。



環境科学博士  
小林 誠 (32歳)

## 地域の人といっしょに 楽しく学ぶ

外来植物を専門に研究しています。例えばブナでも、その土地固有のものでない「国内外来種」がこの地域にも入ってきています。異なる遺伝子をもった種が、地域の種と交雑すると、地域ならではの遺伝子が失われてしまうという問題が生じます。キヨロロでは地域の苗を使った植樹をしたり、講演会などで外来種の問題についていっしょに考える機会づくりをしたりしています。また、市民の皆さんといっしょに開花植物を調査する「花ごよみ調査」を冬季を除き月1回開催しています。皆さんもいっしょに楽しく学びませんか。



学術博士  
伊藤千恵 (32歳)

## 知ること、地域を 誇りに感じてほしい

昆虫を専門に研究しています。この地域の雪(豪雪)と里(ブナ)の環境は、日本中ほかにはない特異な生態系を生み出しています。例えば、昭和7年に東京農業大学の横山桐郎博士によって松之山から発見された「ヨコヤマヒゲナガカミキリ」は、ブナを好んで食し、ブナと密接な関係を持った昆虫です。また、平成17年には、以前キヨロロにいた学芸員と松之山中学校の生徒が新種の甲虫を発見し「マツノヤマヒメコケムシ」と名付けました。次世代を担う市内の子どもたちには、このような自然豊かな雪里をもっと知ってもらい、誇りに感じてほしいと思っています。キヨロロの研究員がいつでもお待ちしております。



農学博士  
鶴 智之 (33歳)



## 雪里のこれから。 それを守るのは私たちです

永きにわたり住み継がれ、そしてこれからも暮らしが続く雪里。その価値を再確認し、取捨選択し、さらに磨き上げる時代にきています。その活用については、一辺倒で考えるのではなく多角的に、例えば環境という面だけでなく、観光・教育・経済活動など多くの視点をつなぎ合わせて考える必要があります。そして、維持するため

には、人を育てること、産業を作ることが重要です。このことを、この地域に住んでいる人たちが考え、実践するためにキヨロロがあります。キヨロロは、地域の皆さんと共に学び、雪里の地域づくりを進めます。(11月23日開催・第18回里山学会での講演より)

開催中!

## ゆき・もり・の・さと 雪・森・農・里 展

～くるくるめぐる ゆきざとのめぐみ～



◎会期：平成25年6月30日(日)まで

人も自然もみんなつながってめぐっています。見て触れて楽しめるキヨロロの展示で雪ふる里山「雪里」の仕組みの不思議を体験しよう。

※開館情報・入場料・問合せは、3ページをご覧ください

「森の学校友の会」でいっしょに活動しませんか

里山の自然や文化に親しみながら、キヨロロの活動に参加・支援する「森の学校友の会」でいっしょに活動しませんか。入館料無料など会員特典もあります。詳しくは問い合わせてください。

